資産運用会社に求められるEUC管理

野村総合研究所 安藤隆浩

平成14年6月に発表された金融庁の『投資信託委託業者・投資顧問業者に係わる検査マニュアル』は、運用、事務、システムに関するリスクをあげ、システムリスクにはセキュリティ、災害、外部委託、システム管理の4つがあるとしている。本稿では、投信・投資顧問会社にとって重要であり、同時に見落とされがちなシステム管理に関するリスクについて考察する。

求められるリスク管理の徹底

平成14年6月に、銀行、保険会社、証券会社に続き、投資信託・投資顧問会社を対象とした『投資信託委託業者・投資顧問業者に係わる検査マニュアル』が金融庁から発表された。このマニュアルは従来の当局指導型の検査から自己管理型の検査へと変化している点に特徴があり、投信・投資顧問会社はリスク管理に関する考え方を明確にし、その管理を実現する必要に迫られることになった。

マニュアルでは、投信・投資顧問会社が考慮すべきリスクとして、運用リスク、事務リスク、システムリスクをあげている。運用リスクとは金融商品の価格変動リスク、事務リスクとは発注や信託帳票との照合など資産運用事務に関する操作エラーなどのリスク、システムリスクとはセキュリティ、災害時の業務中断、さまざまなシステムの管理不備などのリスクである。

EUCが果たす大きな役割

投信・投資顧問会社は、業務の役割によって、ファンドの管理や各種レポーティングを行う「バックオフィス」、リスク管理、パフ

フォーマンス管理、コンプライアンス等を行う「ミドルオフィス」、ファンドマネジメントや売買の執行を行う「フロントオフィス」に分かれているのが一般的である。各部門ではおもに表1に示すようなシステムが使用されている。また、投信・投資顧問会社では、レポーティング業務や運用意思決定支援業務を効率化するため、外部情報や残高情報のデータベース化なども積極的に進めている。

投信・投資顧問会社では、これらのシステムやデータベースに接続された個々のPCを使ってデータを収集・分析し、レポーティングなどを行っているが、このようなコンピュータの利用形態をエンドユーザーコンピューティング（EUC）という。投信・投資顧問会社では、次のような理由によりEUCが果たしている役割が大きい。

表1 投信・投資顧問会社のシステム

部門	システム
バック	勘定系システム レポーティングシステム
ミドル	リスク管理システム パフォーマンス管理システム コンプライアンス管理システム
フロント	各種情報提供システム ファンド構築支援システム 発注システム

委託者からのリクエストにより、特殊な運用実績報告を行う必要がある。

外部情報をハンドリングしながら運用意思決定につなげていく必要がある。

フロント部門における運用意思決定のために膨大な外部情報を必要とする。

ところが、このEUCのなかに思わぬリスクが潜んでいるのである。

EUCのリスクと管理方法

EUCは、自分で自由にPCを利用できるフレキシビリティという利点をもつ反面、その代償としてさまざまなリスクをもたらす可能性ももっている。財団法人金融情報システムセンター（FISC）は『金融機関等のシステム監査指針』の中で、EUCのリスクとその対策について以下の点をあげている。

EUCのリスク

- ・管理対象システムのリストから外される。
- ・無秩序に導入される。
- ・開発、運用、利用が無秩序になる。
- ・ドキュメントが作成されない。
- ・EUCにより出力されるデータを通じて他のシステムに影響を及ぼす。

EUCの管理方法

- ・全システムのリストアップ。
- ・システム導入基準の作成。
- ・各システムの責任と権限の明確化。
- ・開発、運用、利用に関する権限の明確化。
- ・開発、運用に関するドキュメントの作成。

・EUCで作成したデータのアップロード手続き基準の作成。

投信・投資顧問会社では、委託者の資産運用に関し、その実績を報告するだけでなく、意思決定の正当性を説明しなくてはならない。たとえばレポーティングでは、どのデータを利用し、どのような方法で各種の値を計算し、他の帳票の項目値との整合性をどのように保っているのかなどを説明する必要がある。また、運用意思決定でも、どのデータを利用し、どのようなプロセスを経て意思決定に至ったのかを説明しなくてはならない。これらの業務の多くをEUCに依存している現状を考えれば、投信・投資顧問会社におけるEUCの管理のあり方を見直す必要がある。

投信・投資顧問会社に必要なEUC管理

EUC管理の方法としては、上記に加え、EUCで利用するツールからプロセスログを出力し、プロセス管理を行うことがまず必要である。またEUCで利用するデータを一元管理し、データ間の不整合を防止するという対応もあわせて必要である。さらに、EUC管理に関する課題解決に向けて動き出すためには、EUC実施部門（運用を行うフロント部門やレポーティングを行うミドル部門）、情報システム部門、コンプライアンス部門（プロセス管理をチェックする部門）、顧客への報告を行う部門といったさまざまな部門の互いの連携が必須条件となる。